

週報	2026年1月4日 第40号 (創立1907年12月8日) 日本基督教団洛北教会 牧師 久保田拓志 協力牧師 森里信生	〒603-8146 京都市北区鞍馬口通寺町西入下ル 285-83 Tel 075(231)6676 Fax (223)5505 http://rakuhoku-church.com
降誕後第2主日(新年礼拝)	10時45分	礼拝招詞
前 奏	司式 田中 顕 奏楽 中西百合	しかし、主を待ち望む者は 新たな力を得 鷺のように翼を広げて舞い上がる。 走っても弱ることがなく 歩いても疲れることはない。 イザヤ書40章31節
礼拝招詞 (一同起立)		
頌 荣 5 3 9		
主の祈り (5 6 4)		
交 読 1 5 詩篇51篇(讃美歌中ほど12頁)		
讃 美 9 8		
信仰告白 日本基督教団信仰告白(貸出讃美歌裏表紙内側に貼付)		
聖書朗読 イザヤ書40章31節(旧約聖書1109頁) コリントの信徒への手紙二4章16節(新約聖書323頁)		
間 奏	久保田拓志牧師	＜本日の礼拝奉仕者＞
祈 祷		*当番 林 孝典 横井圭子 井上怜伊
讃 美 「ハレルヤ」(「メサイア」より)	聖 歌 隊	*配餐 岸本祐子 石橋真人 井上 直
説 教 「望みにむかって生きる」	久保田拓志牧師	中西和樹 古木健一朗 太田茂之
讃 美 2 0 5		
聖 餐 式		*1月当番役員 西村温美 長谷川尚三
讃 美 II 1 5 2		
献 金 (感謝と献身のしるし)		＜本日の集会＞
報 告		*青年会5分間集会 礼拝堂
頌 荣 5 4 1		*定例役員会・役員研修会 3階会議室
祝 祷		
後 奏		

*次週はオール洛北礼拝です。礼拝開始時刻はいつもと同じ10時45分です。教会学校の教師は10時半に集合し、子ども達を礼拝堂で待機させて下さい。教会学校は、18日より通常通り再開します。

<集会統計>
(12月27日～1月2日)

	曜	集会	男	女	計
28	日	主日礼拝	21	35	56
		教会学校	—	—	—
		幼稚科	—	—	—
		小学科	—	—	—
		中高科	—	—	—
		入門講座	—	—	—
31	水	朝の聖研	—	—	—
		祈祷会	—	—	—

<次週の案内>

顕現後第1主日

(オール洛北礼拝)

1月11日

10時45分

説教 「イエスさまに祈ろう」

久保田拓志牧師

司式 中西和樹

聖書 マルコによる福音書

7章 24～30節

讃美 こどもさんびか 8(66)

こどもさんびか 34(354)

交説 こどもさんびか交説文 12

(詩篇 51編より)

奏楽 太田はるか

当番 林 江美 横井智香

白石有里

誕生会、新年愛餐会

1月当番役員

西村温美 長谷川尚三

<次々週の教会学校担当者>

教師祈祷会司会：大神知也

幼稚科 説教：榎 知寿子

小学科 説教：岸本光希

入門講座担当者：久保田拓志

<会計報告>

(12月28日分)

◎郵便振替口座：01020-0-24987

◎口座名称：日本基督教団洛北教会

◎洛北教会 email：rakuhoku.kubota@gmail.com

<2026年 洛北教会標語について>

「しかし、主を待ち望む者は新たな力を得
鷺のように翼を広げて舞い上がる。
走っても弱ることがなく、歩いても疲れることはない。」
(イザヤ書40章31節)

私たちの信仰は、神様の真実によって与えられ、支えられています。信仰という信じる世界は、私たちにとって大いなる慰めであり、今を生きる勇気と喜びの源です。また、信じる世界は、未来を希望の中に見る視点をも与えてくれます。

2026年の標語はイザヤ書40章の最後を締めくくる聖句です。この聖句を理解するためには、40章全体を見渡す必要があります。

イザヤ書は、バビロン捕囚というイスラエルの歴史的転換期に記され、約200年にわたる預言書です。そして、40章以下は、第二イザヤと呼ばれる人物の筆によるもので、39章までのイザヤ書とは、歴史的背景も時代も異なっています。第二イザヤは、ユダ王国が滅亡した後、バビロンの地にあって、ユダヤ人の解放とエルサレムの復興への希望を繰り返し語った人物でした。

40章1節は、「慰めよ、慰めよ、私の民を」という、主なる神様の喜びの知らせで始まります。抑圧と服従の時はついに終わったという喜びの知らせであり、神様の熱情あふれる御言葉です。

そして、これから再出発を期する神の民にむかって、人間の有限性と神の御言葉の永遠性が語られています。「草は枯れ、花はしぶむ。しかし、私たちの神の言葉はとこしえに立つ。」(8節) 移り変わる人の世にあって、神の言葉のみが、堅く立ち続けます。そこに、信じる世界に生きる人間の希望と喜びがあるのです。

しかし、長年、捕囚の民として暮らしてきた人々の視線は、現在の窮状とその窮状が示唆するごく近い未来にのみ注がれています。そして、「私の道は主から隠されており、私の訴えは私の神に見過ごされている。」(27節) と嘆くのです。

標語とした聖句の前にある30節には、若者のたとえが出てきます。疲れを知らない若者も、いつかは弱り果て、つまずき倒れる時がやってきます。「草は枯れ、花はしぶむ」のです。そして31節の鷺が現れます。翼を広げ、天空を舞うその姿は、限りある人間の力に代わる神様の永遠の命と、何者にも支配されない自由を指し示しています。

神様が創造された森羅万象の神秘と美しさにむかって、目を高く上げよ。己の限りある力の中に閉じこもることなく、天を仰いで、主なるあなたの神を待ち望め。この天地を創造された神様は、私たちの羊飼いでもあり、贖い主でもあることを見よと、第二イザヤは、人々に告げます。

この年も、私たちは、イエス・キリストのご復活の命の中で、神の御言葉をいただいて歩んでいきます。主を待ち望む者は新たな力を得、鷺のように翼を広げて舞い上がる。永遠なる神様は、愛する御子イエス・キリストを贖いの子羊として世に遣わし、永遠の命と自由を私たちに与えてくださいました。それが、神様の真実であり、私たちの信仰の拠り所、そして希望の源なのです。